葦毛通信（いもう）

平成 26 年 9 月 18 日
豊橋市文化財センター
TEL：0532-56-6060
No. 13

1、2014モニタリング報告－3

８月 21 日には葦毛湿原保護意見交換会が開催され、現地で昨年度の大規模植生回復作業の成果と今年度の作業予定地について検討が行われました。葦毛湿原では、夏も過ぎて秋の花の季節になっています。シラタマホシクサが満開を迎え、サワシロギク、イワショウブが見ごろを迎えています。

イワショウブ

サワシロギク

シラタマホシクサ

水の流れに沿って咲くシラタマホシクサ

今年は、シラタマホシクサの分布が広がっています。特に木を伐採して明るくなった湿地の周辺部で、他の植物があまり見られないような裸地の部分に多く見られます。

2、各地点の状況

C地点

実験的に２×５ｍほどの範囲の表土を剥いだところは、両側から流れ込んだ土が上流部分を中心に溜まり、右側ではケシンジュガヤが多く出てきました。左側はトウカイコモウセンゴケが多く見られます。手前の下流側では、１～２個体程度ですが、ミカヅキグサやシラタマホシクサが見られました。裸地の所は少ないですが、流れ込んだ土があるところは植物が多く発芽しています。

７月 22 日

８月 13 日

９月 11 日

葦毛湿原と水源の森

８月５日に林野庁の第２回保護林制度等に関する有識者会議で、「葦毛湿原と水源の森」と題して、葦毛湿原での取り組みの事例報告をしてきました。葦毛湿原背後の国有林内にも湧水湿地があり、葦毛湿原同様数多くの湿性植物があります。背後の国有林は葦毛湿原の水源の森として重要な位置にありますが、豊橋市東部丘陵全体の生物多様性を保全していくためにも重要な存在です。葦毛湿原と共に保全されることを期待しています。発表内容は、林野庁ＨＰの以下のアドレスで見ることができます。
http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/sizen_kankyo/hogorinkaigi2-2.html

G地点

水位確認のための試掘穴は、残念ながらイノシシに埋められてしまいました。昨年からイノシシの掘り返しが目立ってきましたが、今年は一段と多くなっています。Ｋ地点では掘り上げて山にした土が大きく掘り返されています。雨が降って土が柔らかくなると掘り返しがひどくなるようで、何回も掘り返しているようです。

Ｂ・Ｇ地点が接するところでは、少し分かりにくいですが、写真中央部にイヌノハナヒゲの群落が見えます。この部分は、平成24年度に作業を行って表土を剥いだところで、昨年はまだ大きな礫が目立ち植物もまばらでした。今年はイヌノハナヒゲが優勢になり、東側ではミカヅキグサが小さな群落をつくりました。現在は、シラタマホシクサが見られます。また、イヌノハナヒゲ群落の西半部位では、シラタマホシクサも混在しています。イヌノハナヒゲ群落の南側（右側）は、平成 25 年度に作業を行ったところですが、現在は植物がまばらで、大きな礫が目立つ状態です。この部分は平成 25 年度に表土を剥いだので、平成 24 年度に作業を行ったところと同じ変化をするなら、来年はイヌノハナヒゲ群落になる可能性が高いと思われます。

写真手前右側は、平成 25 年度に森林化した所の木を伐採したところです。地表面に細い枝や未分解の葉などが溜まり、土の上にマットが乗っているようです。この部分では、ヌマガヤやシラタマホシクサがわずかに見られますが、植物の発芽は少ないようです。

Ｂ・Ｇ地点が接するところ（西から）

I地点

下流のＡ地点近くでは、さらに土が溜まっています。７月 29 日ではまだ裸地が目立ち、中央にはっきりとした水道ができていますが、９月 11 日には中央の水道が目立たなくなっています。水道周辺も土が溜まり、裸地ではなくなっています。

この部分では、ミカヅキグサ、シラタマホシクサ、ヌマガヤ、ホタルイなどが見られるようになり、ミミカキグサ類も各所で見られます。また、中央やや右手では、葦毛湿原では、この数年見られなくなっていたカガシラ（県絶滅危惧ＩＡ類）が復活しました。

復活したカガシラ

７月 29 日

９月 11 日

Ｆ地点

３か所の播き出し実験区ではさらに植物の生育が進みました。Ａ区ではヌマガヤ、イグサの仲間などがまばらに見られます。Ｂ区もほぼ同様です。Ｃ区ではヌマガヤが多く見られ大きく成長しています。Ａ・Ｂ区と同様にイグサの仲間も見られますが、ヌマガヤが目立っています。この他にはコケオトギリが黄色い花を咲かせています。発芽した植物については、さらに観察を続けていきます。

Ａ区

Ｂ区

Ｃ区

播き出し実験区の周辺では、水田雑草のコナギが発芽しました（写真中央の切り株の右側）。Ｆ区は旧水田で、昭和 10 年代までは耕作されていたそうです。この地点にいつ頃までコナギがあったかは分かりませんが、水田として使われていた当時あったコナギがおよそ 70 年ぶりに休眠種子から目覚めたものと考えられます。コナギ以外の植物も復活する事を期待しています。

秋の葦毛湿原観察会

９月 23 日（火・祝）午前 10 時から 12 時まで秋の葦毛湿原観察会を開催します。第２駐車場先の長尾池公園東屋が集合場所です。豊橋湿原保護の会の会員による説明もあります。これまでの植生回復作業の成果をぜひご覧ください。

鉄バクテリアによる鉄の酸化被膜

前回、溜まり水の表面に油が浮いているように見えるものがあり、フミン酸であると報告しましたが、間違っていたようです。仙台市指定天然記念物「泉ヶ岳のミズバショウほか湿性植物群生地」で同様の指摘があり、仙台市衛生研究所が調べたところ、鉄バクテリアによる鉄の酸化被膜であることが分かったそうです。酸化被膜の場合、触ると割れますが、油の場合は膜状のままです。葦毛湿原で確かめましたが、触ると割れました。